

(特活)バングラデシュと手をつなぐ会 広報誌

Milon

December 2022 No.151



コロナ禍でも続く、私たちの交流と学び

シONDANI看護学校と福岡女学院看護大学のオンライン交流
日本ホスピス・在宅ケア研究会 奈良大会で世界ホスピス・緩和ケアデイ
五ヶ山オカリナコンサート カラムディ村だより

EDMI Y3
MERA

写真:シONDANI・インフォメーションセンターでパソコンの授業(2022年6月)



代表挨拶

この1年を振り返って ～コロナに負けない、着実な歩みを～

バン格拉デシュと手をつなぐ会代表 ニノ坂 保喜



現地からの報告によると、中学卒業後に行われる全国統一テストで、シオンダニ学校の生徒たちが優秀な成績を取めたという報告がありました。メヘルプール県で最優秀だったようです。現地では、コミュニティ・ヘルス・プロモーションの話し合いが重ねられ、最近では、学生らを有償ボランティアとして活用したいという話が出ています。資金の問題など解決すべき点もありますが、現地からの積極的な提案、真剣に検討したいと思います。

インフォメーションセンター（シオンダニ病院の敷地内にある2階建ての建物）では、パソコンを使った授業も行われています。

さらに、看護学校でも普通に対面授業が行われており、日本の福岡女学院看護大学とのオンライン交流が行われるようになりました。女学院のポーター先生がリーダーとなって、バン格拉デシュと日本の看護学生が英語で交流する、という楽しい、有意義なイベントでした。

一方、日本での活動を振り返ってみると、コロナ禍で集団でのイベントがなかなかできませんでしたが、10月には二つのイベントが開催されました。10月8、9日は奈良で、「日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会」が開かれ、そこでの『世界ホスピス・緩和ケアデー』のイベントに、手をつなぐ会も、会の活動とバン格拉デシュの緩和ケアに関して出展しました。

16日（日）には、久しぶりに「五ヶ山オカリナコンサート」が開かれました。きれいに出来上がった五ヶ山ダムを見下ろしながら、爽やかな音色を楽しむことができました。

まだ、バザーなどは開催できませんが、事務局の活動は事務所+オンラインで着実に行われており、1月にはカレー教室も開催予定です。コロナに負けない勢いで、活動を展開して行きましょう。

目次

【代表あいさつ】 この1年を振り返って

【特集】①看護学校オンライン交流事業（・福岡女学院看護大学 Mathew Porter
有山英里 佐々木杏奈 黒木袖衣 ・シオンダニ看護学校 スモーナ先生
ファルハンさん フェルドシュさん ・手をつなぐ会 富貴田景子）
②日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会（久保田千代美 河村富美子
田島寛 安藤和美）

【カラムディ村だより】 ラフマン・モクレスール

【イベント報告】・五ヶ山オカリナコンサート 山城重守
・NGO 合同説明会 in 西南学院大学 大木ひろみ

【事務局だより】・助成金申請状況・行事予定・会計報告



特集 ①看護学校オンライン交流事業

②日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会



バングラデシュ学生らの招聘事業はコロナ禍で中断してましたが、福岡女学院看護大学とシヨンダニ看護学校の学生が2-3分の動画交換での交流にチャレンジしてみました。一方、国内では、「世界ホスピス・緩和ケアデー」に日本ホスピス・在宅ケア研究会が奈良で開催され、当会からも代表を始め多くの人に参加しました。

① 看護学校オンライン交流事業 ～英語での交流にチャレンジ～

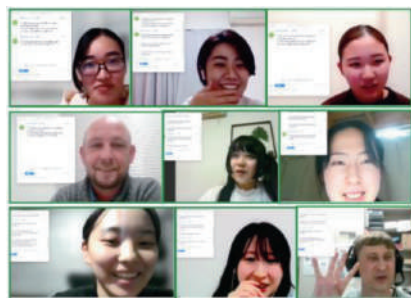
Mathew Porter

福岡女学院看護大学教師



福岡女学院看護大学 (FJNU) は、福岡県古賀市にあるキリスト教系の私立大学です。単科大学看護であるため、各学年 100～120 名の小規模な大学です。在宅・公衆衛生領域は、二ノ坂先生とのつながりで、シヨンダニ看護学校 (SNI) の学生と教職員が 2018 年、2019 年に本学を 1 日訪問しました。本学を訪問した際には、看護及び看護英語の授業の見学、バングラデシュに関するプレゼンテーション、学生との食事会などを行いました。両国の看護学生同士の交流は、活発で印象深いものでした。本学の学生は外国人と直接交流する機会が少ないため、貴重な体験となりました。

日本の在留外国人は過去 10 年間で着実に増加し、訪日外国人は COVID-19 パンデミックが始まるまで爆発的に増加しました。看護師教育に携わる者として、私の目的の一つは、日本で増え続ける外国人患者をケアするために、看護学生を養成することです。そのためには、外国語能力の向上はもちろんですが、異文化理解を高め、日本人以外の人と積極的に交流することを促進することが必要です。残念ながら、パンデミックによって、すべてのインバウンドとアウトバウンドの交流がストップし、有意義な対面交流の機会が失われました。



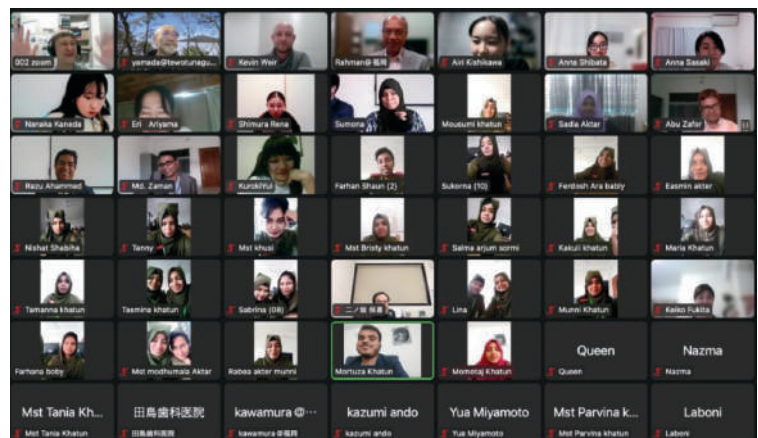
質問に答える FJNU 学生

一方、パンデミックへの教育的対応として、オンライン・コミュニケーション・ツールの活用が進み、より頻繁に、より深い交流の機会が得られるようになったケースもあります。

バングラデシュと手をつなぐ会、FJNU、SNI が

共同で、看護学校間のオンライン交流会を実施したのも、そんな思いからでした。事前に各組織の代表者が集まり、企画について話し合い、カリキュラムやスケジュールを作成しました。参加者は、SNI から 3 年生 44 名、FJNU から 11 名 (2 年生 8 名、4 年生 3 名)。無料のオンライン動画共有ツールを使って 5 人 (SNI4 名、FJNU1 名) のグループを作り、身近な話題から看護・看護教育まで 6 つのテーマで情報や意見交換を行いました。

7 週目には、ライブ交流会を行いました。今回は、看護・看護教育について学生から 23 の質問を集め、各校の代表者がそれに答えるという形式で行いました。



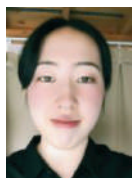
ZOOM でのオンライ交流会(すべて英語で行われる)

技術的な問題や参加しづらい点もありましたが、各国の学生が看護学生としての共通点を知ることができたように思います。また、英語教師としても、学生たちが英語をコミュニケーションのツールとして使う機会を持たせたことに感謝しています。

今後は、お互いの学校を訪問することはもちろんですが、地域の他の国の看護学生を加えて、またオンライン交流ができればと思います。

英語を共通のコミュニケーションツールとして使うことで、他国の看護学生がお互いを知り、世界の看護界とのつながりを感じられると思います。

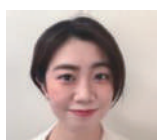
FJNU 2 生年 3 名の感想です。



有山 英里

今回バングラデシュの交流会に参加させていただいて、バングラデシュの文化やお互いに看護をどのように勉強されているか学ぶ良い機会となりました。今回の交流を機会に、自分の英語力の弱さを再確認しました。また、さらに英語に興味を持ち、

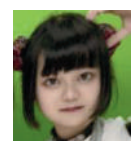
世界で活躍されている看護師の方と交流が出来るように、もっと英語を勉強して話せるようになりたいと考えました。今回は、このような機会をいただくことが出来て良かったです。ありがとうございました。



佐々木 杏奈

「バングラデシュとの交流会に参加してみないか」と先生に声をかけて頂いた時は、「楽しそうだな」と思いつつも、「英語を話すことも聞き取ることも上手に出来ないのに、交流なんて…私に

出来るだろうか…」という不安の方が大きかった。しかし、今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ビデオを録画して送り合い、コメントし合うという方法での交流であった為、事前に沢山準備をして臨むことが出来て、英語力に自信がなかった自分でも交流は成り立った。少しの勇気でかけがえのない経験が出来て、交流会を通して、いつかは物怖じせずに他国の人と会話出来るように、英語を勉強し続けようと思えた。このような機会を設けてくださった方々や声をかけてくださった Porter 先生に感謝したい。



黒木 柚衣

今回の交流で、バングラデシュの文化や教育について知ることが出来て、海外の看護について興味を持ってました。もともと英語で会話することは好きで、将来様々な国に行ってみたいと思っていたので、このように日常ではなかなかない、海外の方との交流の機会を持つことが出来て、楽しかったです。もっと上手く英語を話せるようになって、上手く聞き取れるようになったらいいなと思い、さらに英語を勉強してみたいと言う気持ちになりました。貴重な交流の時間をありがとうございました。

今回の交流で、バングラデシュの文化や教育について知ることが出来て、海外の看護について興味を持ってました。もともと英語で会話することは好きで、将来様々な国に行ってみたいと思っていたので、このように日常ではなかなかない、海外の方との交流の機会を持つことが出来て、楽しかったです。もっと上手く英語を話せるようになって、上手く聞き取れるようになったらいいなと思い、さらに英語を勉強してみたいと言う気持ちになりました。貴重な交流の時間をありがとうございました。

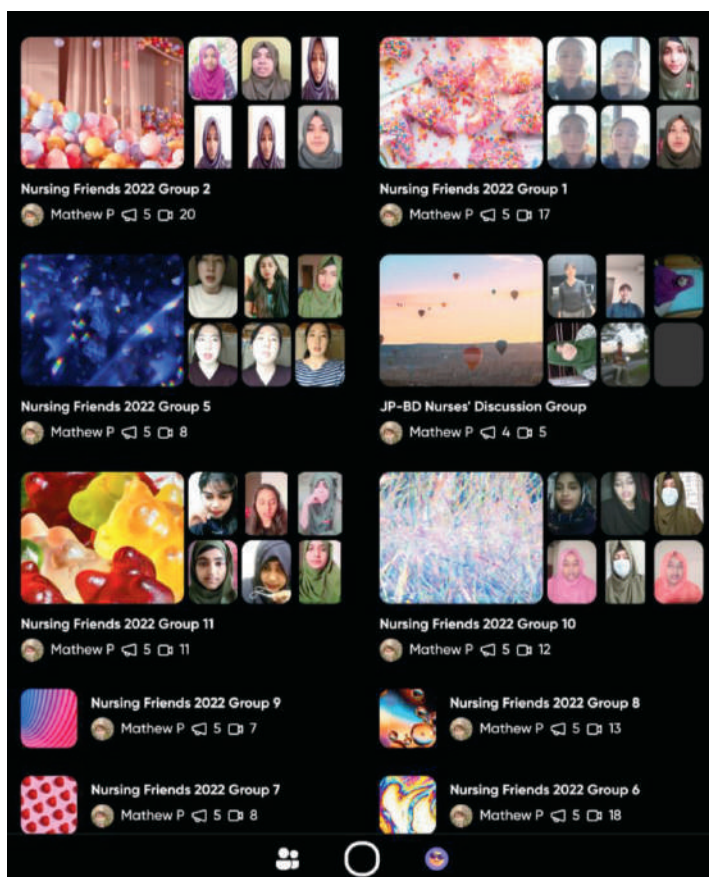
富貴田 景子



手をつなぐ会理事

両校の交流は、2017年にシONDANI看護学校が開校してから、招聘事業で2018年2名・2019年3名の看護学生とメディカルアシスタントが来日した事が始まりでした。福岡女学院看護大学を直接訪問して、交流を深めてきましたが、COVID-19以降、2年間交流が途絶えている状況でした。

今年、福岡女学院看護大学のポーター准教授の呼びかけで、オンラインにて交流を再開することとなり、シONDANI看護学校3年生44名、福岡女学院看護大学11名の学生とそれぞれの教員が参加しました。学生達は5人のグループに分かれて、マイクロソフト社の『Flip』という教育的ビデオアプリケーションを使用し、1週間に1つのお題（「なぜ看護師になろうと思ったのか」「初めての臨床実習」等）に関する3分以内のビデオを“英語で”自撮りし、投稿します。これを5週間行ったあと、11月24日に全員参加のオンラインミーティングを開催しました。お互い、通訳なしの英語のみでの活発な意見交換会となりました。日本とバングラデシュの文化交流が新たな形となった若い熱気溢れる交流会となり、これからも時代に合ったグローバルな交流を企画していきたいと決意を新たにしました。



動画コミュニケーションアプリ「Flip」による交流

Sumona Akter Shompa スモーナ先生

シONDANI看護学校インストラクター



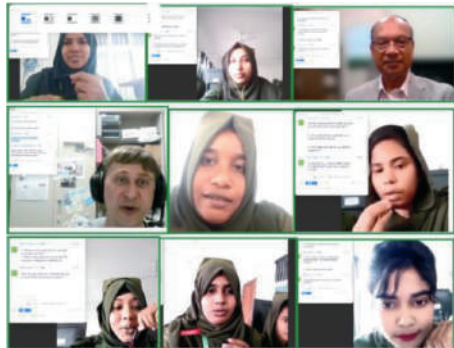
2022年9月15日、福岡女学院看護大学とシONDANI看護学校の両校スタッフがオンライン会議を開き、「国際交流プログラム」を企画しました。

私たちは、日本のような先進国、勤勉な国の人々、文化、教育システム、特に看護の分野を知りたいと強く願っており、この好奇心をシONDANIの看護学生に持ってもらいたいと思いました。

私は、この交流プログラムのバングラ側の運営責任者として、3年生に動画交換アプリを紹介し、グループ分けして交流がスタートしました。

学生たちにガイドラインを示し、継続的にモチベーションを高めるとともに、ラフマンさんやポーター先生と連絡を取り合い、交流プログラムがより良くなるよう話合いました。

それに加え、手をつなぐ会からは富貴田さんが動画を投稿してくださり、当校の看護教師らと、交流を楽しみながら、色々なことを学びました。



質問に答えるシヨндаニ看護学生①

看護学生は、臨床実習で病院内の不特定多数の人とコミュニケーションを取らなければならないため、コミュニケーション能力が求められます。そのため、

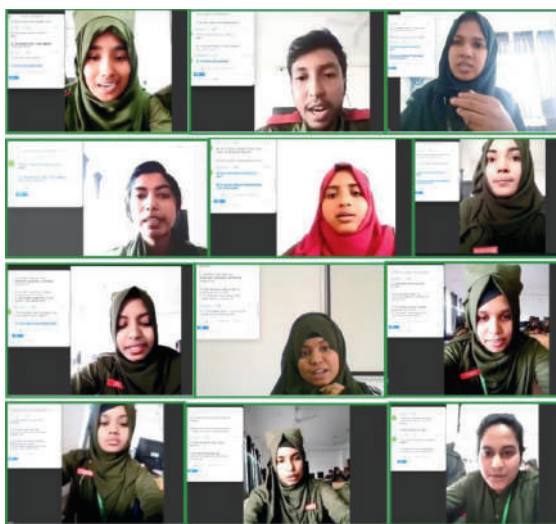
患者をケアするためのコミュニケーションスキルが必要です。

このプログラムを通じて、学生のコミュニケーション力が向上し、交流が深まったことが最大の成果です。このような効果的なプロジェクトを何度も続けて、対人コミュニケーション能力を向上させ、日本とバングラデシュの国際関係を強化したいと考えています。

また、日本の病院を訪問し、看護師が患者をケアする様子を見学する機会を設けることで、より実践的に看護の知識を深めることを望みます。

Farhan Sharier Shaun ファルハンさん

シヨндаニ看護学校3年生



質問に答えるシヨндаニ看護学生②

私は素晴らしい経験をしました。この動画交換による交流授業では、日本の国や文化だけでなく、教育制度についても知ることができ

ました。

交流プログラムは、Flip アプリケーションを使ったビデオ課題から始まりましたが、これは本当に興味深いものでした。初めてのことだったので、最初は少し緊張しましたが、私たちにもできると確信しました。このプログラムを通じて、日本の学生と英語でのオンライン交流を行い、多くの情報や個人的な経験を共有することができました。

日本へ進学したい気持ちがいつそう高まり、私にとって、忘れられない出来事のひとつとなりました。

Ferdosh Ara Bably フェルドシュさん

シヨндаニ看護学校3年生

忘れられない思い出でとなった、今回の「国際交流プログラム」に参加できたことは私にとって、とても幸運でした。

このプログラムを通して、私は多くのことを学ぶことができました。コミュニケーション能力が向上し、動画投稿への恐怖心が消え、英語で動画を作ることで英会話のスキルも向上しました。

恥ずかしがり屋の私は初対面の人と接するのが苦手でしたが、11月24日の交流会には、尊敬する方々が多く参加され、私も話をする機会がありました。これがきっかけで、私は人前で話すことが楽になったようです。

とても楽しく、とても勉強になった交流会でした。

② 日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 世界ホスピス・緩和ケアデー

久保田 千代美



奈良大会大会長・手をつなぐ会会員

第29回日本ホスピス・在宅ケア研究会奈良大会を2022年10月8～9日に開催いたしました。奈良県コンベンションセンターには、全国から約500名参加されて、久しぶりの対面での全国大会でにぎわいました。このたびの大会は、子どもホスピスへの遠い道、生きることは学ぶこと、地域で育む医療的ケア児、子どもの人生会議、中学生による折れない心を育てるいのちの授業など、子どもや教育に関することを中心とした大会でした。

バングラデシュの看護教育に貢献するバングラデシュと手をつなぐ会は、抄録集に広告を出していただきました。ありがとうございます。10月8日は世界ホスピス・緩和ケアデー、世界のホスピス運動（特に途上

国を中心として)でも、バングラデシュと手をつなぐ会はポスターで活動を発表していただきました。

【今ここからはじめる ～あおによし奈良の都で織りなすいのちの言霊(メッセージ)～】



懇親会にてオカリナ演奏(二ノ坂先生、久保田千代美さんら)

この大会に込めた言霊(メッセージ)が、大会開催中に、あちこちで聴かれ、初めから終わりまで広く皆さまの言霊となり広がってゆくを感じる大会でした。古く万葉の時代から、私たちの文化の中には、言葉にすることで幸せをもたらし、言葉の魂が人々を助け、苦しい現実を変えると信じられてきました。様々な立場の人々が、全国から集い、それぞれに善い言葉によって、今ここから善い現実に変えてゆくと信じて、それぞれの暮らしに戻って行かれたと思います。

河村 富美子

手をつなぐ会理事

～あおによし奈良の都から織りなすいのちの言霊～



あおによしとは①奈良に係る枕詞②奈良の都を称える修辞とあります。

大会長の久保田千代美さんは、アドラー心理学、看護教育、エンドオブライフケアを専門とされ、何より優しさ溢れる笑顔で多くの人を惹きつけます。



手をつなぐ会のポスター①
バングラデシュでの当会の取組み

この大会のメッセージは、「地域に暮らす子どもから高齢者まで望む場所で、教育や医療、ケアを受けて生活ができるよう様々な人々と集い、つながりましょう。わたしにもあなたにもできることがきっとみつかります」

また、「ホスピスは苦しみを抱えた人が穏やかにされるための市民活動です」

毎年10月第2土曜日に世界ホスピス・緩和ケアデーが今年 Healing Hearts and Communities (心とコミュニティの癒し)を発表しました。

私たちバングラデシュと手をつなぐ会も33年を迎え、その活動や想いを会のみなさんと一緒にポスター制作をし、みなさんの前で発表するために奈良大会に行つて参りました。

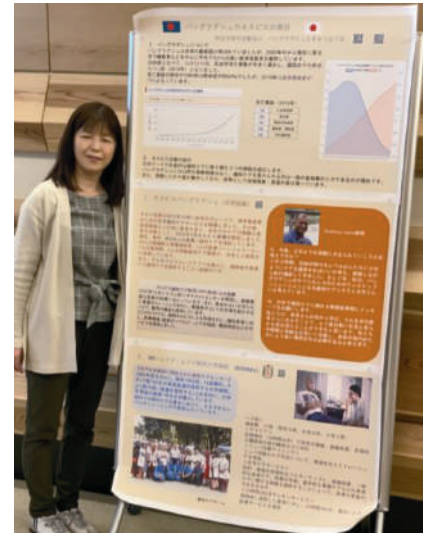
「世界のホスピスデー」で取り上げられた各国のポスターはどれも力作でした。会場一杯の参加者に各国のできごと、関わりについて質問に応えたり説明をしながら熱く語り

ました。ある方が「九州、特に福岡は中村哲さん、二ノ坂さんの存在が有名で、緩和ケア、ボランティア、訪問看護全てにおいて取り組みが熱心です。追いつけ、追い越せの気持ちで頑張りたいので、いろいろと教えてください」と言われました。

大会長の言葉「今ここからはじめる」希望に満ちた挨拶のあと特別基調講演があり、映像作家の保山耕一さんが「私の命と春日の神様」のテーマでお話をされました。

9年前に直腸癌で余命1ヶ月の宣告を受け手術。その後の癌転移で生存率は5%と告げられる。手術の後遺症で、仕事を失い社会での居場所もなくしてしまう。穏やかに幸せを感じながら人間らしく生きることができなくなった保山さんを救ってくれたのが、故郷奈良で出会った人々でした。癌治療中に出会ったお互いに春日大社が大好きな女の子、その女の子にある出来事から救われることとなります。今も保山さんの背中を押してくれる大切な存在の女の子はあの世へ旅立ちましたが、今も保山さんの苦しみを癒してくれます。

ただ生きるだけでなく、自分らしく生きるために、保山さんは故郷の写真撮り続けています。今も癌と向き合いながら…桜の花を撮るとき、毎年、ひとつとして同じ場面はなく、その瞬間を慈しむかのように撮り続けている…保山さんの写真は、余りにも美しく言葉をなくし感動で涙が溢れてきます。



手をつなぐ会のポスター②
バングラデシュのホスピスの現状

大会の前後に医療チームと朝の散策、世界遺産の興福寺を巡り、奈良公園で鹿と遊びました。東大寺国立博物館内では、日本ホスピス・在宅研究会の蘆野吉和先生にお会いしました。

私たちは、二ノ坂先生が別の講演で間に合わなかったため世界のホスピスについて、お話して下さったことへのお礼を申しました。「お互いに助け合うことは何でもないことです」とまだ大会の余韻に浸るかのようように館内で静かに熱く語り合いました。その様子を奥さまもご覧になり奈良大会を迎えるまでの様子を話してくださいました。蘆野先生の良き理解者である奥様のお姿が、二ノ坂先生のご夫婦像とだぶって映ったのは安藤さんも同じ気持ちだったことでしょう。

コロナ禍で日頃オンライン研修でしか、お会いできなかった皆さまとリアルに直接お会いし、お話できたことが本当に良かったと思いました。

来年の大会は、研修で訪問したことのある宮城で行われます。「来年またお会いしましょう！」と約束して帰路に着きました。

田島 寛

手をつなぐ会理事

～奈良の学会で手をつなぐ会も学会発表～



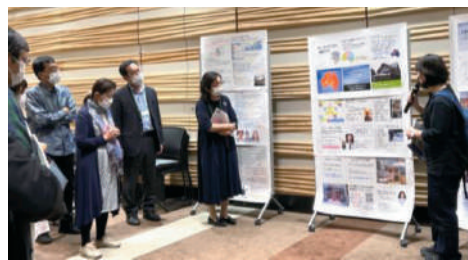
新型コロナに振り回されて2年半を超え、オンラインのセミナーや学会に慣れて、それが当たり前になっていたが、今回久しぶりに公共の交通機関を使い、他県へ移動して学会参加を果たした。第29回日本ホスピス・在宅ケア研究会の全国大会は令和4年10月8、9日奈良市で行なわれた。安倍晋三元首相の銃撃事件から3ヶ月、現場から約3kmの会場であった。

当日は世界緩和ホスピス・ケアデーでもあったので、世界各地のポスターが貼られ、二ノ坂保喜さん（先生と言ったら罰金100円ルールが学会にある）からはロシアのウクライナ侵攻等戦争とホスピスを考えるとといった講演を聴くこともできた。



二ノ坂代表による講演

当日は世界緩和ホスピス・ケアデーでもあったので、世界各地のポスターが貼られ、二ノ坂保喜さん（先生と言ったら罰金100円ルールが学会にある）からはロシアのウクライナ侵攻等戦争とホスピスを考えるとといった講演を聴くこともできた。



ポスター発表の様子

時間の都合で一部のポスター発表のみ行なわれたが、これこそオンラインでは味わえないという場面に遭遇することができ

た。それは各国のホスピスについてのポスター発表が行なわれ普通に質疑応答が行なわれていたところに、参加者のひとりが挙手をして、勤務先の施設において世界のあちこちの国から介護要員が来ており、現実に日本のホスピスの現場で働き対応をしているという報告があり、今後も更にそのような状況が拡大するのではないかという意見を述べた。



世界のホスピスの現状をポスターで発表

この時、世界各地の文化、宗教、習慣、言葉などが異なっても日本でホスピスの対応を行なうことができることを強く感じ、死にゆく人に対する思いは万国共通のものがあると確信することができた。このような感情の動きはオンラインではなかなか生じないと思う。多くの人の表情や会話をリアルタイムで感じながら、そこに自分の感情を対比させ処理するという作業を久しぶりに行なうことができた。

また、次の日の二ノ坂建史さんの講演を拝聴させて頂いた時には、看取りという言葉は患者とは逆の立場に立った言葉であり、世界の各地の人々は看取りをどのような言葉で使っているのかも知りたいと感じた。



世界遺産の東大寺

世界共通の思いは、外国進出する日本の企業の会長さんが「仁」は世界どこでも共通だと以前いていたが、「compassionate」は世界共通だと信じていま

す。Compassionateは、思いやりを持って行動するという意味と理解しております。



手をつなぐ会会員

世界ホスピス・緩和ケアデーの10月第2土曜日はホスピス・緩和ケアに思いをよせる日です。



会場での募金活動

本来コミュニティはどうあるべきかわからず、どうしたら必要とされ、続いていくかわかりませんでした。

今回の日本ホスピス在宅ケア研究会 in 奈良で知りたかったこと、これからの日本がどう向かうのか、

「パブリックヘルスに緩和ケアを組み込む」と題して蘆野吉和先生がご講演くださいました。



バングラデシュ民族衣装でレセプションに臨む当会の参加者

講演の中ではこのような多くの学びがありました。

- ① オタワ憲章と QOL (クオリティ オブ ライフ) の向上を目指したヘルスプロモーション
- ② 「すべての人が適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを支払い可能な費用で受けられる」ユニバーサル・ヘルス・カバーレッジ
- ③ アルマ・アタ宣言とアスタナ宣言の「誰にとってもどこにいても受けられる緩和ケア」を含むプライマリ・ヘルスケア
- ④ 緩和ケアをパブリックヘルスに組み込むパブリックヘルスアプローチ・トゥ・パリアティブケア
- ⑤ 緩和ケアは古代ローマからキリスト教の奉仕活動として始まり、人権としての緩和ケアがあること
- ⑥ シシリー・ソンドースは地域の中にも緩和ケアを広めようとしていたが、日本は緩和医療・医学としての緩和ケアとなってしまったこと
- ⑦ プラハ憲章の緩和ケアを受けることは権利であること
- ⑧ 地域住民が能動的に参画すること、他者の苦しみ

を耐え忍び、苦しみを担い支えるコンパショネートコミュニティ

私たちは、ライフスタイルでのサポーターとして次に何をすべきか、どうしたらよいかということを考えるよい機会となりました。

東大寺、興福寺、奈良国立博物館もまた、よい思い出です。



◆カラムディ村だより

ラフマン・モクレスール



手をつなぐ会副代表

■ションダニスクールの成績

生徒の成績について説明する前に学校制度について簡単に説明します。小学校5年、中学校5年、高校2年、合計

12年。この間4回の公的な試験があります。小学校卒業 (PEC Primary Education Completion)、第8学年試験 (JSC Junior School Certificate)、中学校卒業 (SSC Secondary School Certificate)、高校卒業 (HSC Higher Secondary School Certificate)。この4回の内、中学校と高校の試験の成績がとても重要で、進学するときに重視されます。教育委員会が、中高の試験、採点や成績発表などをおこないます。



メヘルプール県でトップの成績を誇るションダニスクール学生

今年9月に中学校の試験がありました。11月28日に結果発表がありました。ションダニスクールの学生は全員合格しました。理系の99人の学生は、GPA (Grade Point Average 大学の成績指標値)がA+、文系の48人の内31人もA+、残り17人はAでした。もちろん県内でトップの成績です。県内の新聞やテレビで報道されました。2023年度に理系113

人、文系51人、合計164人の学生が受験の予定です。

バングラデシュでは中学校の卒業試験は3月、高校の試験はその後です。コロナの関係でどちらも今年の試験は遅れました。高校の試験では理系39名と文系52名合計91名が受験し、12月6日に終了します。2023年度は理系39人と文系48人の学生が試験を受ける予定です。

学校は通常に戻っていますが、コロナは学生に大きな影響を与えました。中学2年生18人、中学3年生2人、高校2年生8人、高校3年生23人がドロップアウトしました。その理由は、結婚、ドラッグ、ゲーム、友達関係などでした。18人の男子生徒は中退しました。コロナは若い学生たちの将来を奪ってしまったのです。

■シヨンダニインフォメーションセンター



図書室で熱心に読書する子どもたち

多くの小中学生が、ほぼ毎日インフォメーションセンターに集まっています。それぞれの趣味に合わせて自由に楽しんだり、勉強しています。子どもたちは絵をかき、友達に見せたり、家族に見せたりしています。



絵を描いて楽しんでいる子どもたち



5台のパソコンを共有しながら使う

グラウンドではバレーボールやサッカーもできます。インフォメーションセンターは村の真ん中にありますので、ほかの学校からも生徒が来ます。友達になる良い機会になっています。

多くの小中学生が、ほぼ毎日インフォメーションセンターに集まっています。それぞれの趣味に合わせて自由に楽しんだり、勉強しています。子どもたちは絵をかき、友達に見せたり、家族に見せたりしています。

センターには5台のパソコンがあり、子どもたちは映画を見たり、自分の名前を印刷したりしています。これからパソコンの使い方を教える予定です。

グラウンドで

■カラムディ村での衛生教育拡大



無料ででの血圧測定

シヨンダニ病院のメディカルアシスタントと二人のソーシャルワーカーはほぼ毎日、村に出かけ、特に女性の暮らしぶりに注視しています。赤ん坊が生まれているか、どのような生活をしているか、何か問題がない

か、気をつけながら交流しています。

血圧測定を無料で行っています。個人的な相談もありますが、集団で集まって話し合いもしています。このような形で病院と村人の関係が深くなり、必要な時に互いに役に立つことを期待しています。



◆イベント報告

NGO合同説明会 in 西南学院大学



手をつなぐ会会員 大木 ひろみ

9月30日(金)西南学院大学チャペルでNGO福岡ネットワーク主催で学生向けにNGO団体の合同説明会が開催され、6団体が参加しました。当会から河村理事、事務局の野田さんと末岡さん、大木の4名が参加しました。



チャペルでの合同説明会

で少し寂しい感じを受けました。

活動方針やこれまでの活動内容の報告を団体ごとに発表し、西南学院大学からは事前にNGOに関心がある学生の参加希望を募っていました。今年は50名ぐらいの参加者



当会の活動内容を説明

「コロナ禍なので出来ないのでは無く、コロナ禍だから出来る事を考える」を大切にしながら、それぞれの強みや持ち味を活かして活動を続けている各団体の発表を私は聞き、励まされました。

各団体の発表の後に海外ボランティアに参加するか否かを学生さんに問い、4つのブロック（ぜひ参加したい・できれば参加したい・あまり参加したくない・参加したくないの4グルー

ブ)に移動してもらうワークショップもあり、そのうち。数人が海外ボランティアに参加したい理由について発表しました。

参加者への事前アンケートでデータ化されて、おしまいで無く、参加者の反応や発表をその場でリアルに観ることが出来たのは良かったと思います。

そして海外ボランティアよりも国内でのボランティアを希望する学生が格段に多いことに驚きました。

当会には、毎年数名の学生が立ち寄っていましたが、今年は1名だけでした。1名だけでしたが、一人ひとりを大切にしていきたいと思いました。

五ヶ山オカリナコンサート

手をつなぐ会理事 山城 重守



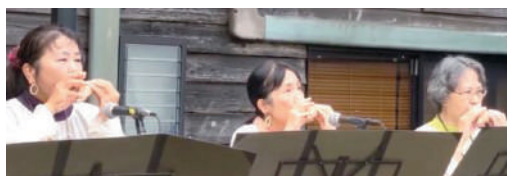
10月16日(日)、佐賀県吉野ヶ里にある「五ヶ山豆腐レストラン」において、3年ぶりに手をつなぐ会オカリナコンサートを開催しました。

山の音楽家 Shana さんの演奏に始まり、グループで出演の、七音(なないろ)さん、ひまわり「ワッハッハ」、そして二ノ坂代表所属の「健康教室」(グループ名です)の一体感のある優しい音色は、70名を超える聴く人すべての心に染みわたりました。



山の音楽家 Shana さん

私は五ヶ山コンサートに初めて参加しましたが、シャ



七色(なないろ)さん

ナさんが奏でる「瑠璃色の地球」に強く心を打たれました。

今もなお悲し

い出来事が繰り返されている時に、この音色と込められた想いを人々と共有できれば…と思うと涙が止まりませんでした。



ワッハッハ(上)・健康教室(下)

初秋の雰囲気の中、オカリナの音色は風の音や虫の声、川の流れてとが一つとなり、暮れていく背振の山に響いていました。



オカリナコンサート参加者(上)・Shana さんを囲んで(下)



◆事務局だより

■助成金・寄贈プログラム申請状況

申請中：A3複合機(NPO法人イーパーツ)

■2022年度下半期行事予定

- ・1月 南福寺チャリティバザーにブース出展
- ・1月29日 バングラデシュ料理教室主催
- ・2月 在宅ホスピスフェスタにパネル出展
- ・3月 NGOカレッジでの団体紹介(NGO福岡ネットワーク主催)

■新会員紹介

〔正会員〕なし

〔賛助会員〕なし

◆会計報告 事務局 末岡智子

■2022年度上半期の収支

【正会員費】	238,000円
【賛助会員会費】	303,000円
【受取寄付金】	1,638,323円
【その他収益】事業復活支援金	1,000,000円
【人件費】	954,884円
【支払寄付金】	3,137,000円

【イベント収入】

- ・10/12 日本ホスピス奈良大会 6,690円
- ・10/16 五ヶ山オカリナコンサート 26,190円

【シヨンダニ支援金送金】

- ・7/6
インフォメーションセンター 800,000 円
現地ヒアリング調査費 87,000 円
- ・8/30
シヨンダニ病院 1,000,000 円
ジャパニスクール 250,000 円
- ・12/8
シヨンダニ病院 1,000,000 円

募金のご協力ありがとうございました！

(2022年6月～2022年11月) 敬称略/順不同

【ミロン募金】

秋吉美千代(日本セラピューティック協会)、有松壽美子、有吉準子、飯野孝子、碓道子、石田陽子、市田敬子、伊藤良子、稲永みき子、平山正明(ウエルフェアネット)、大木ひろみ、大澤友二、小川信、押野圭子、帯田輝幸、鐘ヶ江寿美子、鐘ヶ江康子、金子貴美代、上瀧口麻里子、蒲地純、川内恵美子、神戸太郎、吉瀬恭子、草場耕二、久保田千代美、國光登志子、倉光剛郎、倉光東昭、古賀カツ子、五反田千代、後藤徳子、榎藤説子、酒井和幸、柴小知子、坂本悟、貞刈賜代、貞末一廣、佐藤純子、柴田須磨子、重橋亨、白石信子、末岡智子、末次奈保子、鈴木崇世、瀬尾康子、関根悠紀子、副島タカ、高嶋裕二、竹末龍也、田島寛、多々良元、多々野須美子、立場美枝子、谷口純子、田村賢二、塚原晃子、道本実保、特定非営利活動法人たんがく、中野朝恵、中村サワ子、ニノ坂富士子、野田景子、濱田絹子、原口勝、原紀子、廣田恵津子、福岡比佐子、訪問ボランティアナースの会キャンパス湘南、細野容子、牧瀬千里、松添仁、松田純子、三坂真紀子、溝上明子、牟田壽、元田晶子、安浪加余子、山田榮香、ユ)けやき、ラフマンモクレスール、訪問看護リハビリステーションはる、和田節子

【募金】

有吉準子、山田榮香、入江住子、大内 光、上瀧口麻理子、中園久美子、毛利宗孝、久米隆、馬場キミ子、(医)八田内科医院、山崎麻子、山下久代、宮辰建設、高橋五郎、越智吉郎、吉田一代、瀬角南、大原房子、イ)福岡記念病院、中牟田健児、八木良子、岡本三枝子、杉本潔、倉光陽大、畠山万千、竹末龍也、片岡和子、小山田浩定、出水明、株式会社JEC 山内 優、吉松慶子、飯野孝子、江崎好枝、井上千恵子、東島由美、和田市次郎、和田佐恵子、大脇爲常、井手喜怒子、特非)日本セラピューティック・ケア協会、洪田枝美、今給黎修、鬼東次男、山口龍彦、高松利則、佐田裕一、吉岡正和・香予子、塚原晃子、

ああゆるプロジェクト(セイガー恵美)、宮辰建設(株)あゆみの会、谷口シズコ、山浦トモエ、志岐玲子、関根悠紀子、池田敏子、安田ふさ代、大賀薬局野芥調剤店、愛しとーと、山田和男、佐田紘子、宮崎久美子、今泉幸男・ゆみ子、大賀久美子、川原由美・惇司、谷山玲子、西日本新聞エリアセンター田隈、香原弘明

【旅費カンパ】無し

【その他募金】松田純子、山下久代、南原かつ子

【募金箱設置協力】

にのさかクリニック、シーベスト野芥店、さわらスイミング、かも川薬局野芥店、はびね福岡野芥、なかよし眼科、高砂園、グリーンビレッジテニスクラブ、春風薬局、宮浦事務所、大木整形・リハビリ医院、岡村ツタエ、あおい、なごみの家、白熊園

【日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 奈良広告支援】(10/8・9)

浅野直人、富貴田景子、ユ)クスリのかも川、じゅうばし内科医院、市丸健太郎、山崎麻子、訪問看護ステーション Ohana、福岡浦添クリニック、渡辺雅彦、田村亮、中牟田健児、田島寛、小川信、竹末龍也、中野朝恵、川内恵美子、副島タカ、庄寄恵子

【募金に添えられたメッセージ】

※ささやかな気持ちで、自分の手で皆様のことを思って払込します。

※会には嵐山の婦人会館で大木先生に出会った時がはじめてでした。画集の中に先生を見つけ、とてもなつかしく感謝です。画集ありがとうございました。

たくさんのご協力、本当にありがとうございます。
心から感謝申し上げます。



Bangladeshと手をつなぐ会では、現地NGO「シオンダニ・シオンスタ」とともに、 Bangladesh西部のメヘルプール県・カラムディ村やその周辺地域で、1989年から《教育》《保健医療》《生活向上》の分野で支援活動を行っています。

事業内容

● 現地（ Bangladesh）での活動

- ① 教育（ジャパニ小学校、奨学金制度、仔牛の奨学金プロジェクト、シオンダニスクール）
- ② 保健医療（シオンダニ病院、看護学校、健康教室）
- ③ 生活向上（子牛貸出制度、インフォメーションセンター）



● 国内での活動

- ① 総会（毎年5月）、理事会（毎月1回）による活動方針の決定や運営
- ② 会報誌『ミロン』を年2回、6月・12月に発行
- ③ 現地訪問の実施、報告会実施、報告書作成
- ④ Bangladesh料理教室、チャリティバザー、チャリティコンサートなどの開催
- ⑤ 出張講座や各種イベントでのブース出展などにより、活動紹介

特定非営利活動法人 Bangladeshと手をつなぐ会

〒814-0171 福岡市早良区野芥 6-46-7
 共同事務所「野芥フリーハウス」内
 ☎092-407-7701 Fax092-407-7702

email: info@tewotunagukai.com
<https://tewotunagukai.com>
<https://www.facebook.com/tewotunagukai>



手をつなぐ会の活動全体の支援

ゆうちょ銀行口座 01720-2-10442
 特定非営利活動法人
 Bangladeshと手をつなぐ会

ミロン募金（ Bangladesh現地支援）

毎月の定額振替
 お問い合わせください

編集後記

Milon

「看護学校オンライン交流事業を英語でやりませんか？」と福岡女学院看護大学のポーター先生から6月に呼びかけられた。すぐに私の頭に「通訳なしでの交流は、果たしてできるだろうか」と疑心が生じたが、杞憂に終わる。 Bangladeshの看護学生は、準備万端でライブ交流会に臨み、通訳の出番は無かった。彼女らの努力、熱意を見習わねばと改めて思った。

会 報 名 ミロン151号 2022年12月発行
 ※「ミロン」は、ひとつになる、手をつなぐという意味のベンガル語です。
 発行責任者 ニノ坂 保喜
 (Bangladeshと手をつなぐ会 代表)
 表紙・監修 小畑 麻乙
 編集実務担当 山田 英行
 校正担当 河村 富美子